

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	道水路管理課担当課長 芳賀 哲夫	
都整-06	実施事業	街路照明灯事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 道水路管理課
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	夜間等の通行車両や市民等の安全確保のため。
効果	道路の街路照明灯の良好な維持管理を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

<p>既存の街路照明灯の維持修繕等を行い、市民が安全な生活を送れるまちづくりを図った。 安全な通行を確保するために街路照明灯の設備整備を行った。</p>
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,466人	176,308人	人口	176,436人	
	世帯数	81,150世帯	81,763世帯	世帯数	82,444世帯		
運営資源状況	事業の対象者数			事業の対象者数			
	決算値(千円)	22,552	25,799	当初予算(千円)	25,785		
	国県支出金			国県支出金			
	地方債			地方債			
	その他			その他			
	一般財源	22,552	25,799	一般財源	25,785		
事業経費運営	人員配置数	1.2	1.2	人員配置数	0.8		
	人件費(千円)	9,323	9,350	人件費(千円)	6,196		
	総事業費(千円)	31,875	35,149	総事業費(千円)	31,981		
	市民1人当りの経費(円)	181	199	市民1人当りの経費(円)	181		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	1. ある
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒				事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	新設希望への対応や経年劣化への対応としての補助費等の増加が考えられるが、リース方式でLED化することにより、電気料の節約を図り、予算規模を維持する。		
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする				
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する				

総評(評価に対する考え方、根拠等)	<p>経済効率性に優れたリース方式を追加採用することにより、既に設置されている全ての街路照明灯のLED化を行うなど、電気料を節約し事業費の削減余地はある。 削減した事業費を支柱等の補修等に使用し、予算規模を維持していく。</p>
-------------------	--

平成30年度(2018年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	照明灯の支柱等の経年劣化への対応及びリース事業転換の準備。	
課題解決のために行った平成30年度(2019年度)の取組	街路照明灯のLED化促進のための手法の比較検討を行い、リース事業が効果的であるとの結果を得た。(令和元年:仕様作成及び調査予算の確保、令和2年度:調査委託及び交換工事、令和3年度:リース契約開始)	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	既に設置されている街路照明灯の省エネルギー化を全街路照明灯の93%について実施したが、残りの街路照明灯の省エネルギー化も図る必要がある。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名								
他市実績								

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	省エネルギー・LED化					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
省エネルギータイプ及びLED化を行い、電気料を節約する。	目標値	1,264.0	1,270.0	1,274.0	1,272.0	1,273.0	1,273.0			
	実績値	499.0	499.0	1,175.0	1,178.0	1,179.0				
	達成率	39.5%	39.3%	92.2%	92.6%	92.6%				

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	
-----------------------	--